

活動レポート

日本技術士会北海道本部 倫理委員会

文責：倫理委員会 幹事長 佐々木 裕之

令和 4 年度第 2 回研究 WG 活動報告

はじめに

倫理委員会では、令和 4 年 6 月 8 日(水)に令和 4 年度第 2 回倫理委員会研究 WG(会場出席者 14 名、Web 参加 3 名)を、かでの 2・7730 研修室(会議室定員 42 名)にて開催いたしましたので報告いたします。

1. 令和 4 年度第 2 回研究 WG

(1)第 12 回技術者倫理フォーラムの開催について

令和 4 年度開催の第 12 回技術者倫理フォーラムを 6 月 27 日(月)にホテルポールスター札幌で開催します。昨年の技術者倫理フォーラムと同様に対面と Web を併用したハイブリッド開催としています。また、第 12 回技術者倫理フォーラムの基調講演は京都大学の木村亮教授に「技術者として気概を持ち技術力を高めよう」と題して講演をお願いしています。当委員会の WG 活動報告は小川委員から「旭川高専共同授業「技術者倫理」における受講者の意識変化に関する考察」と題した発表を行います。

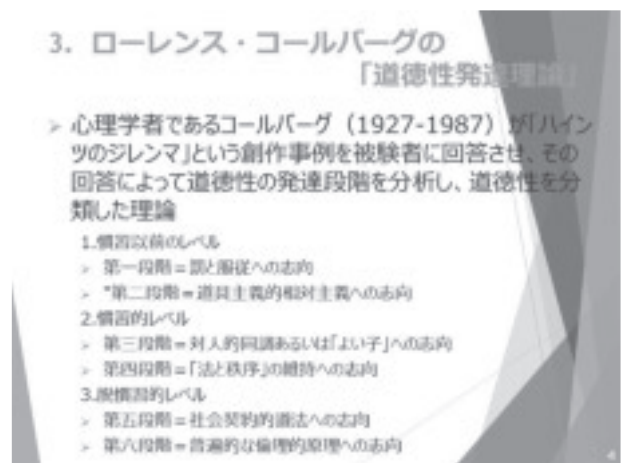


第 2 回研究 WG 会議状況(会場)

(2)技術者倫理フォーラム：WG 活動報告「旭川高専共同授業「技術者倫理」における受講前後の受講者の意識変化に関する考察」(小川委員)

第 12 回技術者倫理フォーラムでの発表内容について、小川委員が説明を行いました。内容・構成は、1. はじめに、2. 既往研究のレビュー、3. ローレンス・コールバーグの「道徳性発達理論」、4. 共同授業の内容、5. アンケートによる調査概要、6. 調査結果、7. 考察、8. 今後の課題、9. おわりにとなっています。

5. アンケートによる調査概要、6. 調査結果、7. 考察、8. 今後の課題、9. おわりにとなっています。



倫理委員会ですらこれまで実施してきた、旭川高専共同授業において、受講した学生にハインツのジレンマという創作事例に関するアンケート調査を行って、ローレンス・コールバーグ「道徳性発達理論」を基に、受講前後の意識変化に関する考察した内容についての報告がありました。

(3)令和 4 年度倫理委員会小 WG での活動内容

令和 4 年度の 8 月以降から、WG 活動を 3 つの小 WG に分割することとしました。3 つの WG の活動テーマを過去・現在・未来とすることとしており、各 WG のリーダーから、活動する内容についての方針等についての説明がありました。過去班は宗教や普遍的な倫理的思考に関する事等について、現在班はコンプライアンスや談合・現在起きている倫理的問題等を取り上げた事例研究等について、未来班は AI や SDGs 等の新しい価値観における技術者倫理のあり方等について WG で議論していくことについて説明がありました。